COP22報告会　歴史的なパリ協定からの第一歩
～COP22を受けた取組み～

2016年11月７日から18日まで、モロッコのマラケシュで開催されたCOP[*1]22とCMA[*2]１の報告会を、2016年12月17日（土）に、エル・おおさか　南館10階　「南1023」にて、大阪府地球温暖化防止活動連絡調整会議[*3]主催、温暖化防止ネットワーク関西 共催で実施しました。

報告１　「マラケシュ会議（COP22）の結果と今後の気候変動交渉の課題」

高村 ゆかりさん　名古屋大学大学院 教授

パリ協定は、①京都議定書と同様、国を法的に拘束する国際条約、②気温上昇の明確な長期目標、③５年サイクルの目標引き上げメカニズム、④適応、支援策も定める、という特徴がある。

パリ協定は、米国、中国、インド、EUなどが批准し、2016年11月４日に発効、COP22でCMA１が開催された。COP22では、①遅くても2018年のCOP24でパリ協定実施規則を採択すること、②作業計画への検討事項の追加、③2018年の促進的対話のやり方について検討を開始すること等が決定に盛り込まれた。会期中にアメリカ、カナダ、メキシコ、ドイツが世界に先駆けて2050年低炭素発展戦略を提出したこと、ビジネスと都市・自治体、NGOなど非国家アクターの存在がさらに注目を集めた。

パリ協定の実施規則の交渉の本格化がこれからの課題である。米国の次期政権の不透明性はあるが、米国なしでも対策と交渉を進めようという各国の意思は、たとえばマラケシュ行動宣言や世界的な気候行動のためのマラケシュパートナーシップ設立などにみてとれるように、COP22で明確に示された。米国のシェールガス、中国の大気汚染問題など事情は様々だが、世界的な再エネコストの低減が進み、足下のエネルギー大転換の動きは止まらない。

報告２　「海外の再生可能エネルギーの可能性」

麻生 義継さん
スカイグループホールディングス株式会社 代表取締役社長

パリ協定により途上国でもCO_2排出削減が必要となり、再生可能エネルギー開発が活発になっている。

太陽光発電ではモンゴルで３箇所、ベトナムで１箇所、インドネシアで２箇所、スリランカで１箇所、風力発電ではベトナムに２箇所の事例があり、さらにこれらの国にはいくつかの候補地リストや計画もある。

このようなプロジェクトに日本も投資すべきと考えるが、カントリーリスク等の理由により依然、消極的である。

報告３　「パリ協定と市民、行政、企業の役割」

早川 光俊　CASA専務理事

日本の2020年目標、2030年目標は低すぎ、引き上げる必要がある。2030年原発比率20～30％、石炭26％というようなエネルギー基本計画、長期エネルギー需給見通しは抜本的に改定する必要がある。

CASAの提案「CASA2030モデル」の検討では、全原発の稼働を即時停止しても、エネルギーを賄い、2030年に1990年比40％削減は可能である。

IPCCに代表される科学、そして市民の関心の高さが解決の鍵である。

山田 直樹（CASAボランティア）

＊１ COPとはthe Conference of the Partiesの略で締約国会議のことであり、ここでは気候変動枠組条約の締約国会議をいう。
＊２ CMAとはthe Conference of the Parties serving as the meeting of the Parties to the Paris Agreement の略でパリ協定締約国会合をいう。
＊３ 大阪府地球温暖化防止活動連絡調整会議の構成員は次のとおり。大阪府、大阪市、堺市、近畿地方環境事務所、大阪管区気象台、認定NPO法人地球環境市民会議（CASA）、全大阪消費者団体連絡会、大阪府生活協同組合連合会、大阪eco動物海洋専門学校、大阪府地球温暖化防止活動推進員、大阪府地球温暖化防止活動推進センター（事務局）

報告

「市民が進める温暖化防止～クライメート・アクション・ナウ！～」キャンペーン

パリで決めよう！ COP21に向けた連続シンポジウム

温暖化防止ネットワーク関西、大阪府地球温暖化防止活動連絡調整会議、大阪府地球温暖化防止活動推進センター、地球環境市民会議（CASA）の主催、気候ネットワーク、大阪府民環境会議（OPEN）、サークルおてんとさん、わかやま環境ネットワーク、奈良ストップ温暖化の会、奈良県地球温暖化防止活動推進センター、CAN－Japanの共催で連続シンポジウムが開催されました。講演内容はネットワーク関西のホームページhttp://www.bnet.jp/casa/COP15_Network_kansai/を参照してください。

第１回「STOP温暖化、国際交渉の基礎を学ぶ」10月３日（土）13：30～16：30

OMMビル201会議室

条約・議定書交渉の基礎知識

早川 光俊（CASA専務理事）

1827年に大気の温室効果が理論的に予測されたことから始まり、2014年のCOP20までスケールの大きな講演でした。特に京都議定書が採択されたときの臨場感は圧巻でした。

COP21の重要性（COP21の論点）

小西 雅子さん（WWFジャパン気候変動・エネルギープロジェクトリーダー）

各国の約束草案が続々と提出されている状況でしたが、分かり易いスライドと軽快な解説で理解を深めることができました。京都議定書とコペンハーゲンの反省をふまえ、トラウマを乗り越えてパリで合意しようと努力が重ねられていることがよく分かりました。

公平性（fair）と衡平性（equitable）を確保しつつ、これからずっと継続して温暖化対策の取り組みが続く枠組みづくり、そして各国の取り組みが進歩（progression）していく制度づくりがCOP21の肝だとのことでした。

第２回「STOP温暖化、パリで決めよう」

11月７日（土）13：30～16：30

マイドーム大阪第３会議室

COP21に向けた日本の方針

水越 英明さん（外務省国際協力局参事官）

温室効果ガス排出削減目標である約束草案の提出状況と各国の目標値の紹介がありました。国際エネルギー機関（IEA）は各国の削減目標を足し合わせても、2100年には産業革命以前からの気温上昇が

2.7℃に達する見込みとしているとのことで、「日本がCOP21で目指す成果は、①全ての国が参加する公平かつ実効的な枠組み、②先進国・途上国の二分論ではなく各国の能力・事情に応じて貢献、③各国の目標の実施が有効に担保され、継続的に削減に向けた野心を向上させる仕組みの構築、④各国が共同で実施する市場メカニズムを通じた国際協力の実現である。」と話されました。

COP21で日本は何をすべきか

山岸 尚之さん（WWFジャパン気候変動・エネルギーグループリーダー）

国連条約事務局の約束草案のまとめより、2℃未満に必要な排出削減量に対するギャップの紹介があり、日本の約束草案は①基準年操作によるまやかし、②長期目標の80％削減と整合していない、③再エネ目標が低すぎ石炭が多すぎる、という問題を指摘されました。日本が貢献するべきポイントは①5年ごとの見直しの仕組みの強化、②差異化でのバランスのとれたポジション、③国内削減以外の分野での貢献、④国内対策の強化への連携、とのことでした。

日本の削減可能性についての検討

明日香 壽川さん（東北大学教授）

「日本の温暖化対策数値目標は、先に『原発再稼働・石炭火力維持・省エネと再生エネは少しだけ』を決めて、その後付けで決めたものである。

原発がなくても2℃目標達成コストは上がらず、電気代やGDPなどは大差がない。日本の省エネポテンシャルについて、2030年の素材系4業種の省エネ対策見込み量は1％程度であるが、実際には現在の省エネ法ベンチマークを2030年に遵守するだけで10％程度の省エネは可能である。」と話されました。

第3回「COP21報告会～COP21の成果と課題」2016年1月23日（土）13：30～16：30

マイドーム大阪第3会議室

COP21で何が決まったか

高村 ゆかりさん（名古屋大学大学院環境学研究科 教授）

パリ協定として合意された内容を、「脱炭素化に向かう長期の目標・ビジョンをより明確に設定した。目標は2℃を十分下回る水準とし、1.5℃に抑制するよう努力する。そのためできるだけ速やかに排出量を頭打ちとし今世紀後半に温室効果ガスの人為的排出量を実質ゼロとする。各国は、それまでの目標を超え、最も高い水準の目標を5年ごとに提出する。」とまとめられ、合意できた背景を①COP21を逃すと合意はさらに遅れる危機感、②フランスの采配、③米国の「作り込み」、④気候変動に関わる経済的・社会的条件の変化と分析されました。合意できた感動が伝わる講演でした。

COP21でのNGOの主張と活動

平田 仁子さん（CAN-Japan代表、気候ネットワーク理事）

CAN（Climate Action Network）のCOP21への提言や活動の結果、「平和的な革命」と評価される会議の成果の紹介後、世界から見ると目標が低く、行動が遅いとされる日本に求められる対応を、①法整備、②エネルギー部門の大転換、③石炭火力発電計画の中止、④26％削減目標の引き上げ、と話されました。今回初めて日本に化石賞が贈られませんでしたが、世界から日本への関心の低下と捉えるべきだとのことでした。

山田 直樹（CASAボランティア）

報告

「市民が進める温暖化防止～クライメート・アクション・ナウ！～」キャンペーン

パリへ、COP21へ届けパレードの声

写真１ 会場風景

写真２ タレシさんからのメッセージ

写真３ メッセージカードでアピール

写真４ パレード出発

世界の将来を左右するCOP21会議がパリで開催されるに合わせて、Climate Action Now!キャンペーン実行委員会主催の、「CO_2削減」を訴えるアースパレード2015が、東京（11月28日）に引き続いて29日（日）に京都市で開催された。会場は円山公園の南にある音楽堂で、CASAと自然エネルギー市民の会（PARE）会員が合わせて約20人参加した（写真１）。

12時頃にCASA･PAREのスタッフが現地入りをして、まずCASAとPAREのバナーを立て、会員の集合場所を示した。参加各団体のノボリも次第に増えていき、音楽堂の舞台では京都女子大の皆さんのダンスや、ミュージシャンの演奏などが披露された。その間にも参加者が続々と集まり、集会の空気は熱くなっていった。最終的には主催者発表で500人の集会になった。

遠路はるばる南の国ツバルから来日されたゲストのタレシさん（写真２の中央左の方）のスピーチをはじめ、環境保護団体やNGOの代表のメッセージが続き、「原発を推進することは再エネの拡大を妨げて地球温暖化を加速させることです。」というコメントにはたくさんの拍手が送られた。

そして会場の参加者全員がそれぞれに自分のアピールを書いたカードを舞台にむかってかざし写真撮影が行われた（写真３）。

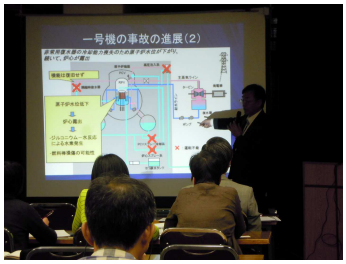
タレシさんとシロクマの着ぐるみシロベエ君を先頭にパレードは600人規模で出発（写真４）。円山公園から四条通りへ出て河原町通りを北上して京都市役所までの約２キロの道（写真５）。「原発反対・再エネ増やそう・地球を守ろう」などアピールを繰り返し、両側の歩道いっぱいの観光客が見守る通りを元気よく行進した。

古畑　等（CASAボランティア）

写真５ 600人がパレード

温暖化防止ネットワーク関西の活動概要

日時・場所	主な内容	
2015 年 1 月 24 日 大阪歴史博物館 参加 41 名	シンポジウム「COP20（ペルー・リマ）の成果と課題、COP21（パリ）での合意をめざして」 報告 「COP20（ペルー・リマ)の成果と課題、COP21(パリ)での合意をめざして」 高村ゆかりさん（名古屋大学大学院環境学研究科 教授） 報告「脱原発と温暖化防止を両立する気候ネットワーク提案」 田浦健朗さん(気候ネットワーク事務局長) 報告「原発ゼロで CO2 排出 40%削減は十分可能 ～CASA2030 モデルの試算結果より～」 上園昌武さん　島根大学法文学部教授、CASA 理事	
2014 年 2 月 1 日（土） 大阪科学技術センター 参加 39 名	シンポジウム「COP19/CMP9 の成果と課題」 報告1「COP19/CMP9 の成果と課題」 高村 ゆかりさん（名古屋大学大学院環境学研究科 教授） 報告2「日本の増加目標と CASA の削減提案」 早川 光俊さん（CASA専務理事）	
2013 年 2 月 3 日(日) 大阪産業創造会館 参加 45 名	シンポジウム「COP18 の結果と日本のエネルギー政策」 報告 1「COP18 の結果と今後の課題」 高村ゆかりさん(名古屋大学大学院環境学研究科教授) 報告 2「福島原発事故とエネルギー政策の現状」 伴英幸さん(原子力資料情報室共同代表) 報告 3「原発の即時廃止と 25%削減の両立は可能 ～CASA2020 モデルの検討結果～」 早川光俊さん(CASA 専務理事)	
2012 年 3 月 4 日(日) 大阪コロナホテル 参加 40 名	シンポジウム「福島原発事故から 1 年」 「COP17 の結果と福島原発事故～原発事故被害と補償、そして 25%削減目標～」 報告 1「COP17 の結果と今後の課題～許されない 25%削減目標の放棄～」 早川光俊さん(CASA 専務理事) 報告 2「福島原発事故の被害と補償～戦後の日本の公害問題と比較して～」 除本理史さん(大阪市立大学大学院経営学研究科准教授)	
2011 年 11 月 13 日(日) エルおおさか 参加 45 名	シンポジウム COP17/CMP7 に向けて 報告「ダーバンに向けた交渉の現状と課題」 高村ゆかりさん(名古屋大学大学院環境学研究科教授) 報告 2「ダーバンに向けた日本政府の対応」 竹谷理志さん(環境省地球環境局国際地球温暖化対策室) 報告 3「ダーバンでの課題～NGO の視点～」 山岸尚之さん(WWF ジャパン気候変動・エネルギーグループ) 報告 4「福島原子力発電所事故と 25%削減」 早川光俊さん(CASA 専務理事) パネルディスカッション	

2011 年 5 月 14 日(土) 新大阪コロナホテル 参加 45 名	内部学習会 福島第一原子力発電所事故について 報告「福島第一原発炉心溶融事故－その概要と安全性－」 後藤政志さん(元東芝 原子力プラント設計技術者)	
2011 年 2 月 5 日(土) 大阪府 社会福祉会館 参加 41 名	シンポジウム COP17(ダーバン)に向けて ～COP16 の成果と課題、後退する日本の温暖化対策～ 講演「カンクン COP16 会議の成果と COP17 に向けた課題」 高村ゆかりさん(龍谷大学) 講演「後退する地球温暖化対策 ～地球温暖化対策基本法案をめぐる状況 平田仁子さん(MAKE the RULE キャンペーン事務局長/ 気候ネットワーク東京所長) 意見交換 コーディネーター早川光俊さん(CASA 専務理事)	
2010 年 10 月 30 日(土) 大阪 科学技術センター 参加 40 名	シンポジウム「COP16 に向けて」 ・基調講演 「カンクン会議に向けて -COP16 に向けた国際交渉の現状と論点-」 高村 ゆかりさん(龍谷大学教授) ・報告 1 「COP16 に向けて」 中野 潤也さん(外務省国際協力局気候変動交渉官) ・報告 2 「COP16 に向けた日本の役割-NGO の視点-」 早川 光俊さん(CASA 専務理事) コーディネーター 田浦 健朗さん(気候ネットワーク)	
2010 年 1 月 23 日(土) 大阪歴史博物館 参加 130 名	報告会「コペンハーゲンの成果と課題」 コペンハーゲンの成果と課題 早川光俊さん 代表団からの報告 COP16 に向けた日本の課題 ・日本における温室効果ガス削減可能性 上園昌武さん ・最近の温暖化の傾向について 岩本智之さん	
2009 年 12 月 12 日(土) 300 名	京都市民パレード	
2009 年 11 月 14 日(土) 梅田 ビジネスセンター 参加 130 名	「COP15 で何が話し合われるか」 講演/龍谷大学教授・高村ゆかりさん 報告とパネルディスカッション 政府関係者、NGO 関係者など COP15 代表団壮行会	

2009 年 10 月 24 日(土) 琵琶湖一周列車	環境イベント列車　琵琶湖・淀川環境号 大阪駅を出発し、京都を経由、栗東で下車。「栗東芸術文化会館さきら」で講演シンポジウム。 再び列車で、車内で PR やセミナーをしながら琵琶湖一周
2009 年 10 月 10 日(土) エル大阪 709 会議室 参加 100 名	第 2 回 CASA 地球環境大学 「日本の中期目標を検証する-科学と経済の側面から-」 講演/　国立環境研究所・増井利彦さん 　　京都大学大学院教授・植田和弘さん
2009 年 9 月 19 日(土) ピアザ淡海　滋賀県立県民交流センター 参加 39 名	シンポ「琵琶湖は生きている-湖底の低酸素化はなぜ起きたのか、その原因と影響」 講演/琵琶湖環境科学研究センター・石川俊之さん 報告/守山漁協・戸田直弘さん 　　尾上朝日漁協・松岡正富さん 報告/COP15 の重要性について、 CASA 専務理事　早川光俊さん
2009 年 9 月 12 日(土) ハートピア京都 参加 100 名	第 40 回京都消費者大会 講演「低炭素社会をデザインする」 京都大学名誉教授・内藤正明さん 報告/学校・地域・NPO が一体となったエコ活動　京都市立雲ケ畑中学校 リレートーク/コンシュマーズ京都、新婦人の会京都府本部 COP15 代表団あいさつ　　映画「北極のナヌー」上映
2009 年 9 月 5 日(土) 奈良県文化会館多目的室 参加 93 名	シンポ「奈良の宝　山、森～温暖化の視点から～」 講演/「環境としての森林～その営みから生まれるもの～」 　　名古屋大学名誉教授・只木良也さん リレートーク 「十津川村の林業再生」十津川村村長・更谷慈禧さん 「奈良県の森林の現状と今後」奈良県農林部林政課 「社寺林保全のとりくみ」室生寺執事・堀本正彦さん
2009 年 8 月 29 日(土) エルおおさか 参加 54 名	第 1 回 CASA 地球環境大学 「条約・議定書交渉の基礎」　報告者/CASA ボランティア
2009 年 8 月 29 日(土) エルおおさか 参加 24 名	コペンハーゲン代表団参加説明会
2009 年 6 月 28 日(日) 大阪歴史博物館 参加 109 名	シンポ「温暖化懐疑論を検証する 「緊急報告、日本の中期目標とボン会議の結果」早川光俊さん(CASA 専務理事) 「科学はどこまで温暖化を証明できているか」 江守正多さん(国立環境研究所 質問コーナー「教えて、江守さん」
2009 年 6 月 21 日(日) 大阪市立総合生涯学習センター 参加 25 名	地球をクールに! フォーラム「大阪湾の異変? 温暖化との関係」 講師　鍋島靖信さん(大阪府水産技術センター) 現場からの報告　　南　勝佳さん　(深日漁業協同組合) パネルディスカッション コーディネーター　　早川光俊さん

4 月 25 日-26 日 高野山 2 日のべ 700 人参加	地救フォーラム in 高野山 ◇25 日　全体会 ・基調報告　フランツ=ミカエル・スキョル・メルビン(デンマーク大使) 浅岡美恵さん(気候ネットワーク代表) アンジェラ・レッドフォード・アンターソンさん(米国気候ネットワーク・プログラムディレクター) ・パネルディスカッション 浜中裕徳さん(地球環境戦略研究機関理事長) 西岡秀三さん(国立環境研究所) 榎本純子さん(紀州えこなびと代表) 平田仁子さん(Make the rule キャンペーン事務局長) コーディネーター早川光俊さん(CASA 専務理事) ◇26 日(日) 午前　分科会 1 ～4 午後　全体会 記念講演　三浦雄一郎さん(冒険家) 「高野山アピール」採択